

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
E142E013		近代文学研究 (Studies in Modern Japanese Literature)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用	後学期	月5	日本語		単独						
担当教員	氏名 藤原 耕作													
	E-mail fujiwarakosaku@oita-u.ac.jp 内線 7533													
授業の概要	近代文学研究では、日本の近代文学作品の中から、実際に具体的な作品を取り上げ、文学作品の研究が実地でどのようになされるのかを講義する。それを通して、教材研究の実践力や応用力を養っていく。ここでは主に坂口安吾の1947（昭和22）年10月から12月にかけての作品を素材とする。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	日本の近代文学についての、やや高度な調査方法や研究手法を学ぶ。							○						
目標2	課題やレポートによって学んだ研究手法を実践する。							○						
目標3														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度（計10）								10						
授業の内容														
1	はじめに 今期の予定													
2	いづこへ													
3	魔の退屈													
4	戦争と一人の女													
5	デカダン文学論													
6	足のない男と首のない男													
7	淪落その他													
8	文学対談													
9	風俗時評													
10	ヒンセザレバドンス													
11	続戦争と一人の女													
12	石の思ひ													
13	肉体自体が思考する													
14	墮落論（続墮落論）													
15	まとめ													
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	○	課題によって知識の定着・確認をはかる。				工 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換	○	講義後に毎回意見交換の時間をもうける。											
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	取り上げる作品を読み、疑問・感想・意見などを課題のプリントに記す。(15h) 取り上げる作品について、基礎的な調査をする。(10h)												
	事後学修	講義を受講して、あらためて作品を読み直し、疑問・感想・意見などを課題のプリントに記す。(20h)												
	想定時間合計	45												
教科書	プリントを配布する。													
参考書	講義時に適宜指示する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題		90%	○									
	レポート		10%	○									
注意事項													
備考													
リンク													
		URL											